# ５［評論］Ａ・Ｃ・グレイリング『考える快楽』

［１］　①生きとし生けるものはみな非常に近い関係にあるという、近年の遺伝学の偉業となった発見は、いまではよく知られるようになり、ありきたりともいえる事実となったが、やはりこれは驚くべき事実である。人類は、半分以上の遺伝子をぜん虫やミバエと共有しており、ほぼすべての遺伝子をチンパンジーと共有している。生命には、家族のようにこれほどａミッセツなつながりがあるというのに、人々はぜん虫を釣り針で突き刺し、チンパンジーで薬物検査をおこなうのをやめようとしない。べつに驚くほどの話じゃない、とあなたは言うかもしれない。［　　Ａ　　］、人類が人類を扱うやり方を見てみろよ。ガス室、人種差別、戦争。②ほかにも余技はあるけど、こうしたものに直面したら、サルやウシに勝ち目があるはずないだろ？

［２］　人類が動物─とりわけ、進化的に人類にもっとも近い動物、すなわち類人猿─の扱い方を正当化する手口からは、学ぶべき教訓がある。類人猿、なかでもゴリラは映画や文学のなかで、長いあいだ悪魔のように描かれてきた。わたしたちとの類似点が、人類と同族であるという証明としてではなく、わたしたちが内部にもっているはずの［　　③　　］をｂショウチョウする手段として利用されたのだ。［　　Ｂ　　］水薬を飲んだジキル博士は、神話が現実になったように野蛮な遺伝的性質をあらわにする。両手は毛むくじゃらになり、眉毛は突きでて、歯は大きくなる。博士は、おそるべきゴリラ男になるのだ。

［３］　類人猿を虐待する人間の言いわけと同胞である人類を虐待する人間のそれは、よく似ている。わたしたちは、ｃキョウイと見なすものに、あるいはｄ軽蔑しているものに、わたしたちとは違う部分をなんとかさがしあてようとする。そうすることで、道徳ある自分たちの共同体のｅ扉を閉じ、われわれの道徳基準が適用されることのない外部へと放り出し、他者を完全な他者にするのである。［　　Ｃ　　］、人種差別と種差別の根はおなじもので、身内とよそ者に関する神話にすぎない。

［４］　数年前に出版された『大型類人猿の権利宣言』で、バオラ・カヴァエリとピーター・シンガーは、人類に嘆願した。「わたしたちの同胞である大型類人猿であるチンパンジー、ゴリラ、オランウータンが、わたしたちとおなじ道徳が通ずる共同体にいることを認めてください。すなわち、生命にたいする権利、自由にたいする権利、そして拷問から守られる権利がかれらにあることを認めてください─とくに、科学研究という名のもとで課せられてきた拷問のたぐいから守られる権利があることを」

［５］　遺伝学的証拠も、行動学的証拠もあがっているのに、なぜ、人類のあいだで適用される道徳上の敬意や配慮を、人類と類人猿のあいだに適用してはならないのか。この疑問にたいして、納得のいく答えはまだ得られていない。だが、心にとめてほしい。道徳の境界線が、このように拡張をはじめた瞬間、それがとまるべき明確な地点はなくなる。すべての生命ある自然は、倫理が通ずる範囲の内部で生きている。そして、まずまちがいなく、④そうあるべきなのだ。

●語注

ジキル博士＝小説「ジキル博士とハイド氏」（ロバート・ルイス・スティーブンソン）の主人公。多重人格者で薬を飲むと醜いハイド氏に変身する。

倫理＝実際道徳の規範となる原則。

■覚えておきたい語句

□１生きとし生けるもの…世に生きているすべてのもの。

□６余技……………………専門以外に、身につけた技芸。

□８手口……………………悪事などのやり方。

□11ショウチョウ……………………抽象的・精神的な内容を、具体的に表現すること。

□20同胞……………………同じ親から生まれた者同士。

□23たぐい…………………同じような性質や種類のもの。

【読みのセオリー】

★対応関係に注目しよう

　評論文の序論と結論に対応関係があることがある。このことに注目すると、文の構造や論理が見えやすくなり把握しやすい。

　対応関係には、語句と語句、文と文の場合があるが、その関係は序論に対して結論の方が上位概念であることが普通である。

◆漢字本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　傍線部①の具体例となっている一文を、本文中から抜き出し、その最初の五字を答えよ。（５点）

［　　　　　］

問２　空欄Ａ〜Ｃに入る最も適当な語句を、それぞれ次から選べ。【読みのセオリー】（４点×３）

ア　しかし　　イ　だって　　ウ　かくして　　エ　このように

Ａ［　　　］Ｂ［　　　］Ｃ［　　　］

問３　傍線部②から筆者のどんな意識が読み取れるか。最も適当なものを次から選べ。（６点）

ア　類人猿にたいして蛮行を繰り返してきた人間に絶望し嘆き悲しんでいる

イ　類人猿にたいして蛮行を繰り返してきた人間に憤慨し怒りをぶつけている

ウ　生きとし生けるものに蛮行を繰り返してきた人間を哀れみ強く同情している

エ　同類にたいしてさえ蛮行を繰り返してきた人間を余裕をもって批判している

オ　同類にたいしてさえ蛮行を繰り返してきた人間を皮肉を込めて批判している

　　〔　　〕

問４　空欄③に入る適当な言葉を、次から選べ。（５点）

ア　人間性　　イ　属性　　ウ　野性　　エ　獣性　　オ　習性

　　〔　　〕

問５　傍線部④の「そうあるべき」状態とはどういうことか。文中の具体例を用いて、四〇字以内で説明せよ。（12点）

　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　本文の趣旨に合致しないものを次から一つ選べ。（10点）

ア　人種差別と種差別は、他の人種や種を自分たちの道徳基準適用外に置いた根拠のない神話であり虐待の理由になっている。

イ　遺伝学的にも行動学的にも人類と類人猿は同胞的な関係だが、人類に適用される道徳基準が類人猿に適用されないのは疑問だ。

ウ　生きとし生けるものは非常に近い関係にあり、とりわけ類人猿は同胞とも言えるので、道徳や倫理の世界を共有すべきだ。

エ　ガス室、人種差別、戦争などをおこなったわたしたち人類は、類人猿の扱い方を正当化する手口から教訓を学ぶべきである。

オ　生命には遺伝子的に家族のようなミッセツなつながりがあるが、人類は人類にも他の生物にも虐待を繰り返している。

〔　　〕

【解答】

漢字　ａ密接　ｂ象徴　ｃ脅威　ｄけいべつ　ｅとびら

問１　人類は、半

問２　Ａ＝イ　　Ｂ＝ウ　　Ｃ＝エ

問３　オ

問４　エ

問５　ぜん虫を釣り針で突き刺したり、チンパンジーで薬物検査をおこなったりしないこと。（39字）

問６　ウ

【現代文読解用語200】

問　次の言葉の意味をそれぞれ後から選べ。

⑲エゴイズム（　　）

⑳ナショナリズム（　　）

㉑リアリズム（　　）

㉒ヒューマニズム（　　）

㉓モダニズム（　　）

㉔フェミニズム（　　）

㉕シニシズム（　　）

㉖アカデミズム（　　）

ア　民族主義・国家主義

イ　近代主義

ウ　利己主義

エ　人文主義

オ　学問・芸術至上主義

カ　冷笑主義

キ　女性主義

ク　現実主義

【解答】

⑲ウ　⑳ア㉑ク　㉒エ　㉓イ　㉔キ　㉕カ　㉖オ

〔要　約〕

　結論（全体のまとめ）の5段落を使ってまとめる。「生きとし生けるもの」→「すべての生命ある自然」、「道徳」→「倫理」と、1段落（序論）と対応し、上位概念・より広い範囲を示す言葉が使われている。ただし、遺伝学的証拠、行動学的証拠の内容は3段落の「身内とよそ者の神話」なので、この部分を入れる。

　　　　　↓

　人種差別と種差別の根は身内とよそ者の神話にすぎないのに道徳上の敬意や配慮をなぜ類人猿に適用しないのか。道徳の境界線が拡張をはじめた瞬間からとまる明確な地点はなくなる。すべての生命に倫理が通じるべきだ。（100字）

〈筆者＆出典〉Ａ・Ｃ・グレイリング　一九四九年生まれ。哲学者。ロンドン大学バークベック・カレッジなどで教鞭を執った。邦訳に『ウィトゲンシュタイン』がある。本文は、『考える快楽―グレイリング先生の哲学講義』（栗木さつき訳・日本放送出版協会、二〇〇五年）より。

☆「セオラム　補充問題」問題は次の３種類があります。

　＊差し替え　　　……　当該の問と差し替えるもの

　＊追加　　　　　……　同じ問いで追加された問題

　＊新問　　　　　……　追加が可能な新たな問題

＊新問

問７　前後の文脈を考え、空欄に入る適切な言葉を文中から探し答えよ。ただし漢字３字で。（21行目「共同体」を空欄に）

［答］　　共同体

＊新問

問８　26行目「それ」が指す部分を文中から抜き出せ。

［答］　　道徳の境界線

＊（語彙）追加

④　キョウイ

ア　自然の（　　）に感銘。

イ　平和に（　　）を与える。

⑤　キジュン

ア　採点の（　　）を決める。

イ　会館の使用（　　）を守る。

［答］④ア驚異　イ脅威　　　⑤ア基準　　イ規準

■要約の方法　★柱の段落、柱の文を探す

《各段落の柱の文を使って段落の要約文を作る》

［１］　生命は遺伝子学的に家族のようなつながりがあるのに、人々は他の生物への虐待をやめない（のはなぜか）。

［２］　人類が類人猿の扱い方を正当化する手口からは教訓が引き出せる。

［３］　人種差別と種差別の根はおなじで、身内とよそ者の神話にすぎない。

［４］　バオラ・カヴァエリたちは「大型類人猿の権利宣言」で人類に、類人猿が人類とおなじ共同体にいることを認めるよう嘆願した。

［５］　人類のあいだで適用される道徳上の敬意や配慮を、なぜ類人猿に適用しないのか。この疑問に納得のいく答えは得られていない。道徳の境界線がとまる明確な地点はなく、すべての生命に倫理が通ずるようになるべきである。

　　　　　↓

《柱の段落を決め、要約する》

　この文章の構造は、明確な形ではないが、次のようになっている。

・［１］段落　　　序論（話題の提示・問題提示的な働き）

・［２］〜［４］段落　本論（論理展開）

・［５］段落　　　結論（全体のまとめ）

　だから、「生きとし生けるもの」「すべての生命ある自然」など、序論と結論で対応する言葉がある。さらに「倫理」という一ランク上位概念も使われている。したがって、要約は結論の柱の文を中心に文章化することになる。

　　　　　↓

■本文の要約■

　人類のあいだで適用される道徳上の敬意や配慮を、なぜ類人猿に適用してはならないのか。納得のいく答えは出ていない。しかし、道徳の境界線がとまる明確な地点はなく、すべての生命に倫理が通ずるようになるべきである。（102字）